

IMF サーベイ

IMFワークプログラム

IMFのアジェンダ、よりダイナミックで多くの雇用を伴う世界経済を重視

2014年6月19日



パリの建設作業員。IMFは、この先数カ月にわたり、財政政策、長期的な成長、雇用がどのように相互に影響するのかを調査する。（写真：Mal Langsdon/Reuters/Newscom）

- 異例の金融支援策の解消を重視
- IMFは、雇用と成長を促進するなかでの構造改革の役割について調査
- 政策協調は、成長を押し上げ、負の波及効果を抑制するために重要

国際通貨基金（IMF）の次期のワークアジェンダ（作業計画）では、緩やかで、かつ脆弱な回復を、より急速で、均衡の取れた持続可能な成長へ転換させることを重視している。

年に2回行う IMF ワークプログラムに関する協議で理事会は、[グローバル政策アジェンダ](#)及び4月の[国際通貨金融委員会（IMFC：IMFの政策諮問委員会）](#) コミュニケが示した方向性を、今後12カ月間の具体的な計画に反映させることを中心に議論を行った。

新しいワークプログラムでは、金融正常化の管理の必要性や、成長への公共投資の役割、雇用と成長を押し上げ脆弱性を減らすための構造改革の重要性、対外的な再調整を促進する措置にスポットを当てている。

以下のインタビューでは、シダート・ティワリ戦略政策審査局長が、この先数カ月の IMF の優先課題について説明している。

IMF サーベイ：異例の金融支援策の解消を管理することが、ここ数カ月間の中心的課題ですが、IMFはこの作業をどのように進める予定ですか。

ティワリ：異例の金融支援策の解消に関する課題は、IMFのワークアジェンダにおいて引き続き優先課題となります。加盟国にとって、関連する政策課題がいくつかあります。非伝統的な金融政策を実施した先進国・地域にとって、問題は、異例の刺激策をいつ、どのように円滑に解消するかということであり、その際、世界の他の地域に及ぼす影響（波及効果）や、我々がスパイルバック（戻り）と呼ぶ先進国・地域自身への影響の可能性も考慮する必要があります。

新興市場並びに途上国・地域にとっての問題は、この過程で資本フローや通貨がより不安定化した場合、どのように対応するかということです。これらの国は波及効果を管理するために、どの程度、為替レートや他の政策を調整できるのか知りたいと思っており、同時に、金融市場の深化が、どのように国の頑健性を高めるのかという疑問を持っており、それに我々が答えようとしています。

中・長期的な課題に目を向け、金融状況が正常化した際の金融政策はどのように行われるべきかという問題について、より基本的な視点で考察したいと思います。

多くの国にとって、主要優先課題は、成長を維持しながら財政の健全化を進めることです。IMFは、この努力をどのように支援していますか。

ティワリ：この課題は、高い失業率や低迷する成長、高い債務水準に直面する多くの先進国・地域にとってだけではなく、成長の鈍化や政策余地の縮小、市場のボラティリティの上昇に直面する新興市場国・地域やフロンティア経済にも重要です。IMFスタッフは、財政政策、長期的な成長、そして雇用がどのように相互に影響するのかを調査するための分析作業に取り掛かります。

また、我々は、多くの地域で社会資本ストックが減少し新規のプロジェクトのための財政余地が限られていることを考慮し、公共投資の生産性を高める方策を検証します。もちろん、IMFは公的財政管理や税制政策などの分野における能力強化も支援し、適宜、金融支援の提供を行う用意があります。

IMFCは、世界経済が移行しているこの時期に、構造改革を実行するよう加盟国に促しています。ワークプログラムは、この課題にどう取り組みますか。同様に、成長をより持続可能で、多くの雇用を伴い、包摂的なものにする必要性に対し、どのように取り組みますか。

ティワリ：実際、多くの国で、マクロ経済の支援政策の余地が縮小するなか、構造改革は、政策手段として一層必要とされています。構造改革は、様々な形で可能であり、例をいくつか挙げれば、労働市場の政策改革や、教育及び健康・医療の政策改革などがあります。当然、我々は、全ての分野で助言や支援を提供することはできません。だからこそ、今年の秋に完了する、2014年の「3年毎のサーベイランス・レビュー」が、IMFがどの構造改革に焦点をあるべきかの指針となります。

一方、ワークプログラムには、成長をより持続可能で、多くの雇用を伴いかつ包摂的なものにするうえでの構造改革の役割について調査するいくつかの項目が既に含まれています。近く発表される「世界経済見通し（WEO）」は、成長を押し上げるうえでの公共インフラの重要性について検証します。また、新興市場並びに途上

国・地域において、金融の深化が、成長を支え頑健性を高めるために果たすことのできる役割について研究します。

構造改革に関する他の分析作業は、個々の国の必要性にあわせたものとなります。ユーロ圏の国々では、政策当局は中小企業の資金調達と若者の失業を懸念しており、低所得国の、「話題の言葉」は変化と多様化です。

IMF は、政策の協調と一貫性を促進するため、現行の取り組みを基盤にどのように進めますか。

ティワリ：世界の相互関連性が一層高まっています。言わば、我々は皆、同じボートに乗っているようなものです。低迷する世界経済の成長や市場の散発的な不安定化を考慮すると、最も重要なのは、成長を支え、政策リスクを制限するために協力することです。我々は、協力を促進するために、加盟国の政策の多国間的整合性と、一国の政策措置の他国への影響について分析を続けます。これには、7月に発表される「波及効果報告書」や「対外部門の安定性に関するパイロット報告書」も含まれます。加えて、我々の対外部門評価の手法をより広範な国々に拡張するとともに、世界レベルでの再調整の経験を評価するための作業が計画されています。

同時に、リスクと波及効果についての理解をどうしたら深めることができるか、そして、ショックに対する頑健性を高め、より耐久性のある成長を実現するという、各国が今日抱えている課題に合った政策助言を提供するために、これをどのように活用できるかを考えることが重要です。我々の助言の有効性は、国々がいかに協力しながら取り組むかということにますます左右されることから、先ほど述べた2014年の「3年毎のサーベイランス・レビュー」では、国際協力におけるIMFの役割についても考察します。

また、グループ化した4条協議を増やしたいと考えています。つまり、類似した課題や特性に直面する、または、経済的に関連している国々で成るグループに対する協議です。最近、我々は、バルト諸国に関する協議を完了し、そして、今後12カ月の間に、東南アジア諸国連合（ASEAN）の5カ国そして住宅バブルが崩壊した欧州の国々で、新しいグループ化した協議を予定しています。国をグループ化するというのは、最近の革新的試みです。これは、我々を隔てるものより、結束させるものが多いことを実感させ、協力が必要であるというメッセージを送ります。

低所得国向けには、何が予定されていますか。

ティワリ：低所得国は、これまでのところ、素晴らしい頑健性と力強い成長を見せています。主要な先見的課題は、例えば貿易と投資を深化させることで加速する成

長を維持し、より高い生活水準を実現することです。最近我々は、成長を押し上げるための構造変革と多角化の重要性について、そして天然資源からの富をどのように管理するかについての分析プロジェクトを完了しました。次のステップは、加盟国の政策当局を支援するために、これを運用化することです。

我々はまた、今年の秋、低所得国の見通しと脆弱性を客観的に見直し評価します。IMFの多大な融資の取り組みに加えて、より強固な金融政策の枠組みを構築し、統計を改善し、その他の援助を提供する支援をするために現地での能力強化を続けます。これは、地域技術支援センターを通じても行われます。

関連リンク:

[ワークプログラムを読む](#)

[最新の世界経済見通し](#)

[低所得国の成長](#)

[新興市場国・地域の成長](#)

[ラガルド：エンパワーメント](#)